

1 学校教育目標
(1) 感動ある教育を展開し、地域の進学等希望者の夢を地域で叶える学校を目指す。 (2) スポーツが盛んで、文化の香りのする学校を目指す。 (3) 生徒・保護者・地域住民に信頼され、愛される学校を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 生徒の自律（自立）心の高揚を図りながら、生徒一人一人の成長を目指す。 (2) 「プロメ・プラン」を効果的に活用し、生徒の進路実現を目指す。 (3) 保護者や地域住民と連携して特色ある学校づくりを目指す。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	今後の学校経営の方向性の具体化	清流未来創造プロジェクトチームによる提言	現状の把握と課題の整理を行い、5年、10年後を見据えた取組の具体策を検討する。	各部、学年、教科等に対して、提言を行い、実行に移すための協力を得る。	B	提言により開設した特進クラスが卒業を迎え、進路実現に大いに貢献した。プロジェクトチームの積極的な活動ができなかった。
	安全な学校づくり	安全管理の徹底と整備	危険箇所の把握と早期対応	安全点検を年に2回実施し、安全100%を目標とする。	A	安全点検を実施し、危険箇所の把握とその改善に向けて取り組んだ。
		危機管理意識の向上	危機管理マニュアルによる意識の共有化	職員研修を実施するとともに、防火防災訓練を実施し、危機管理意識の向上を図る。	A	危機管理マニュアルの改訂を実施し、生徒の事故対応等にも生かされるなど職員の危機管理意識は向上した。
	地域からの信頼を得る学校づくり	地域及び保護者との連携	保護者の協力による学校行事の開催	体育大会や文化祭、ハーフマラソン大会等で保護者からの協力を得て、行事を成功させる。	A	学校行事に参加協力していただく保護者の数も昨年より増加した。また、行政にも働きかけていただき校舎周辺の環境美化が進んだ。
生徒による地域貢献		地域行事への協力	地域のボランティア活動に積極的に参加する。	A	多くの生徒が様々なボランティアに参加・活動することで、郷土を大切に思う心の育成ができた。生徒会では、地域のイベントの運営に積極的に参加することができた。	

	八代清流高校の評価向上	八代清流高校の周知	八代清流高校のPRの工夫	ホームページの改良や学校説明会のあり方を再検討し、募集定員を満たす。	A	テレビ・ラジオによるCMを実施した。範囲は限定されるが、好評であった。
		進学重視型単位制の周知	進学重視型単位制の特徴やメリットをPR	教育課程や選択科目を動画やスライドを使ってわかりやすく説明する。	A	新たにオープンスクールを実施した。内容の検討と参加者増へ向け取り組みたい。
学力向上	わかる授業の推進	職員の授業力の向上	3年間を見通した授業計画の構築と授業力向上のための研修と実践	年2回の公開授業後合評会を実施し、お互い指摘しあうことで授業力を高める。	A	アクティブラーニング等の先進的な取り組みを行っている先生の授業を参観し、充実した研修となった。
		生徒の授業理解度の把握	生徒による授業評価の実施	年2回授業評価を実施し、授業力の向上につなげる。	B	全教科平均は若干の向上が見られた。
	自学自習できる生徒の育成	生徒の自主的な家庭学習への取組	生徒の家庭学習時間を増やすための工夫と、家庭学習のやり方を指導	年3回の家庭学習時間調査結果をもとに各教科で家庭学習時間増加のための方策を検討する。また、面談週間や家庭訪問を利用して、学習の仕方をアドバイスする。	B	家庭学習時間調査に併せて課題量調査を実施することで、生徒の学習状況が見えてきた。学習時間向上にはさらに工夫を要する。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	生徒の進学意識の改革	それぞれの個に応じた進路実現を図る。特に、4年制大学への進学希望者の増加を目指す。	教務部単位制係と連携し、年6回程度行う面談の充実と低学年からの体系的な進路指導に努める。	A	面談の効果により大学等への進学希望者が増加した。センター試験受験者が年々増加し、最後まで挑戦する生徒が増えた。
		望ましい職業観・勤労観の育成	キャリア教育の推進	3年間を見通したLHRや総合的な学習の時間「プロメ・プラン」を設定する。2年次のキャリアプランニング活動の充実を図る。	B	課題研究への取組姿勢は概ね良好だったが、個人差が見られた。検定による資格取得やインターンシップ活動への積極的な取組が見られた。
	希望する進路を実現するための学力等の育成	生徒の進路希望や学力等の確かな把握と指導	適切な進路指導	進路希望調査及び模試の結果を分析する。課外・土曜講座の出席率100%を目指す。	B	調査・分析は行うことができたが、共有した情報を生徒の進路意識の高揚へとつなげていく必要がある。
		コミュニケーション能力等の育成	小論文指導や面接指導の充実	「プロメ・プラン」の活用と、年1回以上の外部講師による講演を行う。	A	2年生までに取り組んだプロメ活動を3年での受験(小論文・面接等)に生かすことができた。
生徒指導	生徒の自律心と自尊感情の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	生徒が自ら行動できる環境の整備	緊急の場合のみ校内放送を行う。授業での生徒への指示の出し方を配慮する。	B	自律心が欠如し、学校行事において、自ら行動できていない一部の生徒が見られた。

		基本的な生活習慣を確立させる。	時間の厳守 挨拶の励行	欠席数を減らす。朝学習に遅刻させない。	A	基本的な生活習慣は確立されているが、時間の遵守については指導の徹底を図りたい。
	明るく楽しい学校づくり	問題行動やいじめのない学校を目指す。	問題の早期発見と素早い対応	アンケート等の調査により、問題を発見し、早期に対応する。	A	約90%の生徒が、学校生活を明るく楽しく送っていると回答している。今年度は、問題行動やいじめは発生していない。
	交通指導の強化	交通マナーの向上	交通講話の実施 二重ロックの推奨	交通講話による交通安全教育を徹底する。 月1回の二重ロック点検を実施し、二重ロック100%を目指す。	A	本校職員による交通安全指導は徹底できたが、生徒の自覚が足りないところに課題が残っている。また、安全教育を行い交通事故の恐ろしさを学んだが、自転車での接触事故が数件発生した。
					A	二重ロックの100%達成率は、昨年よりも下がったが、常日頃からの、校外や自宅での二重ロックは徹底できた。
人権教育の推進	命を大切に する心を育む指導	命を大切に する心を育む プログラムの 推進	指導ユニット に従って、心 に響く多様な 指導を実施	全教科全領域で「生徒の命を大切に する心」を育む 指導を実施する。	A	全教科及びホーム ルーム、講演会等 で概ね計画どおり 実施できた。
		自分の夢や目 標を持たせ、 人の役に立つ こと・尽くす 姿勢を身に付 けさせる。	全学年で総合 的な学習の時 間を利用し、 「プロメ・プラ ン」を実施	将来の目標の設 定、自分の考え の発表、目標達 成のための具 体策を考えさ せる。	A	プロメ・プランを 活用してのキャ リア教育の実 施は全職員が よく取り組み、 目的を達成した。
	職員の人権 意識の高揚	職員研修の充 実	校内研修会 の計画的な実 施及び外部研 修会への積極 的な参加	地域で実施さ れる研修会へ の参加率向上 を目指す。	B	校内研修を予定 どおり実施し、 効果があった。 八代地区人権 集会や現地研 修会への参加 者は昨年より も増加したが、 他の校外研修 会への参加者 が増えず、不 参加者への啓 発が課題であ る。
	生徒の人権 意識の高揚	豊かな人権感 覚を身に付け た生徒の育成	LHR等によ る人権教育の 充実	校内推進委員 会による教育 内容の検討と 指導の工夫、 改善に努める。	A	人権教育は計 画どおり実施 でき、生徒か ら人権の大切 さについて学 ぶ機会が増え たと回答があ ったが、さら なる内容の充 実を図る必要 がある。

いじめの防止等	いじめの早期発見	生活アンケートによるいじめの早期発見	生徒・保護者へ3回（1・2年生）、2回（3年生）のアンケートを実施	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	A	年数回の生徒・保護者対象のアンケート調査を実施した結果、いじめの早期発見と未然防止につながった。
		担任との面談によるいじめの早期発見	アンケート調査後すぐに担任との面談長期休業後等に担任との面談	担任の面談だけでなく、全職員が普段の学校生活の様子を観察し、いじめの早期発見に努める。	A	昨年同様、アンケート調査の結果を受けて各担任が速やかに面談等で対応できたことで大きな問題は発生しなかった。
	いじめ根絶への取組	生徒会によるいじめ根絶の宣言	「心のきずなを深める月間」における取組の充実	生徒会で「いじめ撲滅標語」を募集し、「いじめ撲滅宣言」を作成する。	A	生徒会のいじめ根絶宣言や標語作成により、いじめに対する考え方や生徒の認識が深まった。
		いじめ問題対策委員会の活性化	いじめ事例解決率100%	職員研修を実施する。いじめ問題対策マニュアルの徹底を図る。	A	根本的ないじめ問題克服のために、未然防止の観点から、生徒の対人関係を構築することを念頭におき、全職員で問題解決に取り組んだ。

4 学校関係者評価

八代清流高校の特色として、生徒たちの夢（目標）を叶えるため、今後もさらにきめ細かい面談を続けてほしい。地域や企業が求める題材としても当てはまるようなことを、プロメ・プラン（総合的な学習の時間）として取り組んでいるので、今後も社会が必要とする人材を育成してほしい。

センター試験受験者数が大幅に増えており、今後も進学実績を上げ、さらに上級学校卒業後に地元就職する人材を育成してほしい。

5 総合評価

生徒自らがルールを守る意識が高く、その上で約90%の生徒が学校生活を明るく楽しく送っている。さらに来校者から、生徒たちの気持ち良い挨拶について、好評価を得ている。また、生徒の命を大切にす心や人権を大切にす意識も高まっている。

高大連携大学出張講義や九州内の大学訪問を行ったことなどから、大学進学に対して高い目標を持つようになった。目標の実現のために、家庭学習の習慣が身に付いてきた。

生徒募集用のチラシ（宇城地区から芦北地区の全52,000世帯へ配付）を昨年度に引き続き作成し、学校HP、学校公式YouTube（清流Ch）、学校新聞（清流だより）の充実を図った。また、県内公立高校では初めて、生徒会を中心となってテレビCMを作成・放映するなど、広報活動を重点的に取り組んだ結果、一定の成果は見られた。

6 次年度への課題・改善方策

学習に対しては、ほとんどの生徒が与えられた課題等をこなすという姿勢である。アクティブラーニング型の授業を取り入れるなど、生徒が主体的に取り組める「わかり、考える授業」を目指していきたい。

進学重視型単位制の特色を生かし、国公立大学だけではなく有名私立大学に合格できる学力を身に付けさせたい。そのために、教務部を中心に教育課程を抜本的に編成し直し、進路指導部を中心に3年間を見据えた進路指導計画を作成し、組織的に実行していきたい。

学習面だけではなく、学校行事や部活動等、学校教育全体を通して社会が必要とする人材を育成するという信念を持ち取り組みたい。

また、生徒数の確保が本校の課題であるため、広報活動のさらなる充実を図り、生徒募集につなげていきたい。